

報告書

昭和六〇年三月二十五日付証人美作太郎氏の証言速記録三九丁「文庫本と単行本、あるいは新書版ではそれぞれ読者が違うんです。エディションが違ふといことが非常に大きな問題になります。」に対する反論。

昭和六〇年 五月 七日

早川書房 沖田安弘 (印)

東京高等裁判所民事第一三部 御中

記

甲第五九号は

NHKテレビより放映されている連続ドラマの原作本、杉本苑子著「冥府回廊」(上・下巻)は、昭和五九年一月二十四日に日本放送出版協会から単行本として出版され、次いで昭和六〇年二月八日に文藝春秋社より文庫本が出版された。

この単行本の売行きについて早川書房営業部が、小売書店の協力を得て調査したところ、別表のような結果を得た。これによれば、五十九年一月には計二三六冊、六〇年一月には二〇〇冊売れていた。「冥府回廊」単行本は、文庫版の出版された二月に突如四五冊に激減し、三月に至っては六冊となっている。

この売行きの推移をみれば、単行本の売行きが同一作品の文庫版の売行きに大きく影響を受けること、またいかなるエディションであろうと読者層が同じであることは一目瞭然である。

さらに、この調査中に単行本の早期文庫化に関し書店からの声が早川書房営業部員にかなり寄せられたので、あわせて報告する。

国立市の某書店店長談

「冥府回廊」は単行本発売後二、三ヶ月を経ずして他の出版社より文庫化されたため、単行本の売行きは七、八割方ダウンした。インタヴァルの短さに驚くとともに、「文庫化」の問題に關してこれほど憤りを感じたことはない。映画化、テレビ化ものは単行本、あるいは新書である程度売れる。それなのに、確実に視聴率のとれる番組の原作本をやられてしまったことが義憤の第一要因である。

三鷹市の某書店店長談

北方謙三氏の作品は単行本でよく売れてきたが、二、三点文庫化されたといま既刊本はおるか新刊の単行本の売れ行きにまで、かげりが見え始めてしまった。低定価、低マージンの文庫では、かなり売らないと単行本で売って

いた時代の売り上げに追いつきません。

なお今回の調査は、調査対象者の希望によりすべて匿名とした。

別表・「冥府回廊」単行本売行きの推移

	昭和59年 11月	昭和59年 12月	昭和60年 1月	昭和60年 2月	昭和60年 3月
東京都文京区A書店	—	—	43	8	0
東京都千代田区B書店	—	23	14	1	0
東京都中野区C書店	—	21	7	0	0
東京都杉並区D書店	21	11	8	2	0
東京都中央区E書店	62	28	23	0	0
東京都渋谷区F書店	—	18	14	4	1
東京都豊島区G書店	58	34	26	6	0
藤沢市E書店	—	25	10	7	5
横浜市F書店	—	76	55	17	0
計	141	236	200	45	6

*なお空欄は資料が存在しないもの。